

# 大口よしのり通信

大口よしのりホームページhttp://www.oguchi.gr.jp/

発行:大口よしのり後援会

■国会事務所

東京都千代田区永田町2-1-2

衆議院第2議員会館308号

TEL03-3508-7017

■静岡事務所

静岡県静岡市葵区伝馬町23-6

TEL054-273-8739



新春特別

新春の抱負を街頭で語る大口善徳衆議院議員 = 平成23年新春 静岡市

新年あけましておめでとうございます。

昨夏の参院選では、皆様の絶大なる真心のご支援を賜り、ねじれ国会の中、政策形成への影響力を増す立場を与えて頂きました。

公明党は、昨年12月に「新しい福祉社会ビジョン」の中間とりまとめを発表し、「2025年」の社会保障の姿を提示し、雇用、子育て、医療、介護、障がい者などの分野の安心を確保し、「孤立」から「支え合い」の社会へ総合的な対応策を提言しました。

今月召集される通常国会では、わが党の責任の重さをかみしめ、「国民の生活を守る」との一点で迷走する民主党政権に対して「闘う野党」の姿勢を貫き、厳しく対峙し論戦を挑んで参ります。

今春行われる統一地方選においては、定数減等もあり、極めて厳しい闘いとなることは必至の情勢となっておりますが、行動する政策集団としての公明党のネットワーク力や住民本位の地方議会改革の原動力となることをお訴え申し上げ、全員当選を目指し全力を尽して参りますので、何卒、ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

【現役職】《衆議院》法務委員会理事、消費者問題特別委員会理事 《党内役職》中央幹事、静岡県本部代表、東海道方面協議会議長、東海方面副議長、国会対策委員長代理、政調法務部会長、財政・金融副部会長、内閣副部会長、経済産業副部会長、環境副部会長、憲法調査会事務局長、行政改革推進本部事務局長、政治改革本部副本部長、消費者問題対策本部事務局長、教育改革推進本部副本部長、地球温暖化対策本部副本部長、総合海洋政策プロジェクトチーム座長、マンション問題議員懇話会副会長、雨水利用及び雨水貯留浸透施設の推進に関するプロジェクトチーム副座長、成年後見制度促進プロジェクトチーム座長、自転車事故問題対策プロジェクトチーム顧問  
《議員連盟》中部日本横断自動車道推進議員連盟副会長

# 政治とカネの問題を一貫して追及

## 不透明な資金疑惑を追及



2月12日の衆議院予算委員会で大口議員は、鳩山総理や小沢幹事長ら（当時）の“政治とカネ”的問題について厳しく糾弾し、再発防止へむけた改革案を提案しました。さらに、政党交付金を国会議員らに支出する“渡し切り”は使途不明金であり絶対に禁止すべきであると主張しました。

## 政規法改正案をラジオで訴え



大口議員は政治とカネの問題をめぐり2月22日、政治ジャーナリストの角谷氏とFMラジオ・J-WAVEで熱く語り合いました。公明党が提出している政治資金規正法改正案は、秘書のやったことを『知らなかつた』では許さない厳しい法律で、違反すれば公民権停止となる旨説明しました。

## 秘書がやつた許さず



政治家の監督責任を強化し違反した場合、公民権停止となる政治資金規正法改正案が11月26日、衆議院政治倫理特別委員会で審議入りし、各党代表者からの質疑に対し、大口議員が法案提出者として答弁に立ちました。

## 歳費「日割り法」が成立



大口議員が2月の予算委員会で、歳費の月割り支給を日割りに改めるよう提案し、7月30日に衆議院に「歳費日割り法案」（公明党案）を提出。

その後、与野党協議が整い、国会議員の「歳費日割り法」が、12月3日の参議院本会議で全会一致で可決、成立しました。

## 法科大学院地域的適性配置を



3月12日の衆議院法務委員会で大口議員は、新司法試験の合格率が低下している要因の一つとして法科大学院の乱立による過剰な定員数を指摘し、定員削減をすすめた場合、地方小規模校が淘汰され、地域的適性配置を損なうことのないよう、地方校への公的支援を求めました。

## 司法修習生の給費制暫定復活



衆議院法務委員会は11月24日、司法修習生の「給費制」を1年間に限って維持する裁判所法改正案を可決、成立。大口理事は、法曹志望者が経済的理由で法曹の道を断念しないよう改正案を取りまとめました。また、政府が法曹養成制度のあり方について検討することになりました。

## 基地問題で揺れる沖縄訪問



大口議員は12月12～13日、沖縄を訪問。米軍普天間移設問題などについて、地元地方議員の「わが国の安全保障に米軍の基地が必要なら日本全体で負担すべき」「訓練回数を減らしてほしい」などの訴えを聞き、地元マスコミ関係者やグリーン米総領事と意見交換しました。

## 尖閣問題で政府を追及



10月29日の衆議院法務委員会で大口議員は、尖閣諸島沖での中国船衝突事件で、那覇地検が釈放理由として「国際関係」を挙げたことに触れ、「外交判断は政治がすべきで、検察への押し付けは司法権の独立に悪い影響を与える」と厳しく指摘しました。

## 国際ユニヴァーサル会議2010



「第3回国際ユニヴァーサル（UD）・デザイン会議2010inはままつ」の特別パネルディスカッションに出席した大口議員は10月31日、「UDはバリアフリーを最初からつくらない考え方。普及には現場住民の参画が重要」と指摘し、ネットワーク政党公明党の取り組みを紹介しました。

# 2010年(平成22年) 大口議員の活動と実績

## 雨水地下貯留施設 1.3万トン



下川原地区(静岡市駿河区)の浸水被害対策として、国道の地下に1.3万トンの貯水施設が平成23年度より施工されます。

これは、大口議員が平成18年から衆議院予算委員会で何度も取り上げ、当該地域の浸水対策について推進してきたものです。

## 安倍川橋耐震工事着工



安倍川橋(静岡市駿河区、大正12年7月供用開始、築87年)の耐震工事がすすんでいます。

これは、大口議員が平成20年2月の衆議院予算委員会で取り上げたもので、歴史的土木遺産である公共建築物の耐震、長寿命化に取り組むよう質問し推進してきました。

## トイグチ沢砂防堰堤工事着工



大河内小中学校(静岡市葵区)裏にあるトイグチ沢の砂防堰堤工事が着工しました。

これは、大口議員が衆議院建設委員長(平成12年)の時に、砂防部長とともに現地を視察。また、平成20年2月の衆議院予算委員会でもとりあげて推進してきました。

## 遠州灘海岸の浸食防げ



侵食がすすむ遠州灘海岸を視察した大口議員は平成18年の衆院予算委で、アカウミガメの産卵地であり日本三大砂丘の一つに数えられる中田島砂丘の保全の重要性を訴え、環境保全と土砂の安定供給について質問。現在年間5万m<sup>3</sup>の養浜工と離岸堤の設置がすすめられています。

## 小山町に局地激甚指定



記録的な豪雨に見舞われた小山町について、政府は農地等に係る災害に対して局地激甚災害に指定することを決めました。

これは、大口議員らが災害発生直後に現地を視察し、防災担当大臣に強く要望してきたもので、現在復旧にむけた工事が急ピッチで行われております。

## 東名法面 耐震強化策を



大口議員は平成21年8月11日の地震をうけ、これまで明確な耐震基準がなかった盛り土などの土構造物について、安全確保へ適切な基準を作るよう訴えてきました。さらに、地形や地質など今回の崩落現場と類似する箇所の全国総点検を早急に実施するよう指摘し推進してきました。

## 静岡空港へのアクセス道



富士山静岡空港へのアクセス道、志太中央幹線の整備がすすんでいます。これは、財政が逼迫する地方自治体の窮状を大口議員が平成20年2月の衆議院予算委員会で取り上げ、道路整備促進にむけた国の支援について質問し、促進してきたものです。

## 国道交差点に右折レーン完成



国道139号麓地区の交差点(富士宮市)に右折レーンが設置され、安全に右折ができるようになりました。

これは、大口議員が平成21年2月の衆議院予算委員会で取り上げ、平成22年夏の日本ジャンボリーの無事故の運営を念願し質問したものです。

## 伊豆縦貫道の整備促進



静岡県東部地域の道路網の強化と、観光資源に恵まれる伊豆半島の発展に大きな役割を果たす伊豆縦貫自動車道の整備を促進するために、大口議員は平成20年、21年の衆議院予算委員会で当該地域のかかえる諸問題について質問し、推進してきました。

# 2010年(平成22年) 大口議員の活動と実績

## 介護の多角的議論を



衆議院予算委員会は中央公聴会を開き質問に立った大口議員は2月24日、公明党の新・介護ビジョンに関連し、介護保険制度の抜本的見直しの必要性を強調しました。立教大学大学院教授の高橋紘士公述人は、介護をめぐる住宅や権利擁護など多角的な政策の議論を述べました。

## ケア付き住宅の整備を



衆議院予算委員会で質問に立った大口議員は2月25日、高齢者が安心して暮らせる環境づくりが重要と指摘し、ケア付き住宅や医療・介護などの拠点整備をすすめるよう求めました。また、鉄道での転落事故を防ぐための駅ホーム柵等の設置促進を訴えました。

## 胆道閉鎖症患者に朗報



小児難病の一つである胆道閉鎖症が4月1日から障害者手帳の交付対象と認定されました。これは、地元県議を通じて相談を受けた大口議員が地方議員と連携して推進してきたもので、この日は患者、家族会の皆様が交付された障害者手帳を持参して喜びの声を届けられました。

## 死因究明法案を提出



死因究明の実施に関する基本方針を定めた「死因究明推進法」を自民党と共同で衆院に提出した大口議員は6月11日、この法案の作成に取り組んできた提出者として、「死因究明制度の確立は進んでいない。犯罪や事故の見逃しにつながりかねず、早急な成立が必要だ」と述べました。

## 議員立法提出数で第4位



小学館発行の「DIME」の6月15日号で国会議員の仕事ぶりランキングが発表され、その中の「衆議院議員の議員立法数」で大口議員が4位になりました。

総選挙までの任期中(2005年9月11日～2009年7月21日)で大口議員は17本提出し、与党議員(当時)としてトップでした。

## 肝炎PTで支援約束



大口議員が副座長を務める党肝炎対策プロジェクトチームは9月2日、日本肝臓病患者団体協議会のメンバーと懇談しました。

患者団体からは、重症化、高齢化していく患者の医療費助成と生活支援について強い要請があり、前向きに検討していくと約束しました。

## 親子関係の断絶防げ



共同親権制度導入検討PT座長の大口議員は12月9日、「親子新法連絡会」の鈴木裕子代表らと意見を交わしました。鈴木代表は、父母双方の親権が認められないため、『連れ去り』や『引き離し』が横行していると問題点を指摘。大口座長は「しっかりと対応していく」と応じました。

## 司法書士の皆様と意見交換



大口善徳議員は12月10日、静岡県司法書士会・同政治連盟との懇談会に出席し、司法書士を巡る諸課題について意見交換しました。会の方からは、法務局の事務・権限の地方移管について、登記、供託及び国籍に関する事務は、国が責任を持って行うべき等の要望がありました。

## 脳脊髄液減少症-保険適用急げ



党脳脊髄液減少症対策ワーキングチームは12月20日、患者の代表や支援の会と厚労省を訪れ、診断基準の早期確立などを求める要望書を25万人の署名簿とともに提出。

この要望活動には渡辺座長、大口議員ら5名の国会議員と地方議会の代表らが同行しました。